

2026 11

霜月 November 令和8年 丙午

神武紀元2686年 平成38年 昭和101年
大正115年 明治159年 イスラム暦1448年



おんながた いわいはんしろう 女形 岩井半四郎

天明六年(1786)に大阪から江戸へ下った歌舞伎の女形、岩井半四郎(四世)の大小。
「やがて極大坂下り半四郎」と書かれており、この文章の中に漢数字が読み込まれている。「極」が十二月を示し、大坂の坂の字の偏が横向きの「九」、旁が「十」と逆さまの「七」、下里を合わせて「正」を作り、半四郎の「四」で天明七年(1787)の年の月を表している。

大小の並びは以下の通り
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二
大 小 小 大 小 小 大 小 大 大 小 大

日 Sunday	月 Monday	火 Tuesday	水 Wednesday	木 Thursday	金 Friday	土 Saturday
第45週 1 赤口 旧九月二十二日	2 先勝 万霊節(死者の日) 楓鳥黄(もみじつたきばむ) 紅葉やつたの葉が色づいてくる	3 文化の日 友引 九月二十四日	4 先負 三りんぼう 九月二十五日	5 仏滅 九月二十六日	6 大安 九月二十七日	7 赤口 一の酉 立冬 山茶始開(つばきはじめてひらく) さざんかの花が咲き始める
第46週 8 先勝 九月二十九日	9 仏滅 三りんぼう 太陽暦採用記念日 十月一日	10 大安 十月二日	11 赤口 十月三日	12 先勝 地始凍(ちはじめてこおる) 大地が冷えて凍り始める 十月五日	13 友引 十月五日	14 先負 十月六日
第47週 15 仏滅 七五三 十月七日	16 大安 十月八日	17 赤口 金盞香(きんせんかさく) すいせんの花が咲き始める 十月十日	18 先勝 十月十日	19 友引 二の酉 十月十一日	20 先負 十月十二日	21 仏滅 三りんぼう 十月十三日
第48週 22 大安 小雪 虹蔵不見(にじかくれてみえず) 虹が見えなくなる 十月十五日	23 勤労感謝の日 赤口 十月十五日	24 先勝 十月十六日	25 友引 十月十七日	26 先負 十月十八日	27 仏滅 朔風払葉(きたかぜこのはをばらう) 北風が木の葉を吹き払うようになる 十月二十日	28 大安 十月二十日
第49週 29 赤口 十月二十一日	30 先勝 十月二十二日	 立冬/りっとう 旧暦10月、亥の月の正節で、新暦11月7日頃である。これから冬に入る初めの節で、この頃は陽の光も一段と弱く、日足も目立って短くなり、冬の気配がうかがえるようになる。	 小雪/しゅうせつ 旧暦10月、亥の月の中気で、新暦11月22日頃である。まだ市街には本格的な降雪はないものの、遠い山嶺の頂には白銀の雪が眺められるので小雪という。冬の到来を目前に感じさせられる。	万霊節(死者の日) カトリック教会では死者を追悼する特別の祭日。人々は花を持って墓参りをし、死者との交流をはかる。メキシコでは骸骨人形が街にあふれ、死者を思い出すよすがとなっている。ちなみに前日は万聖節、すなわちすべての聖人を祝う日となっている。	太陽暦採用記念日 明治5年(1872)11月9日、太陰暦を廃し、太陽暦を採用することの詔書が発せられ、太政官布告第337号により公布されたことを記念する日。1年を365日とし、それを12月に分け、4年毎に閏年をおくこと、1日を24時間とすること、太陰暦(旧暦)の明治5年12月3日を太陽暦(新暦)の明治6年1月1日とすることなどが定められた。	勤労感謝の日 明治改暦以降、新嘗祭(にいなめさい)は11月23日に祝われることとなり、戦後、国民の祝日としてこの日が勤労感謝の日となった。「勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」という趣旨でおこなわれる。